

3年ぶりに上田に帰省（ふるさと先人館に）

上原 昇（2組）

コロナ禍に加え諸事情も重なり、暫く遠出ができずにいましたが、このたび3年ぶりに帰省がかない、5月27日から四日間、上田に滞在してきました。

コロナウイルスは故郷との距離をすっかり遠ざけてしまったようです。

当日は上田も初夏を思わせるような気温で、まぶしいばかりの新緑が輝いていました。まだ大人数での会食などは控えなくてはなりませんので、少人数の同期の仲間たちと久しぶりに一献傾けてきました。

29日（日）には上田城址公園まで、ぶらり散策に出かけました。途中、母校の古城の門と同窓会の尽力で浚渫された濠を眺めると、水中には亀や緋鯉が悠々と泳いでいます。公園入口から少し北側に進み、2年前に設立された「信州ふるさと先人館」を初めて訪ねました。当館には、上田出身あるいは上田で活躍し多大な業績を残した先人、偉人を51名紹介しています。特に、赤松小三郎（1831-1867）、山極勝三郎（1863-1930）、小河滋次郎（1864-1924）の三人は大きく扱われています。

関東同窓会の会報に「上田ゆかりの偉人」というコラムがあり、過去20名以上の偉人たちが紹介されています。この先人館展示のうち、12名が会報でも紹介済みです。

これから会報で紹介したい先人が7、8人発見することもできました。

二階は彫刻家・画家として著名な石井鶴三の美術資料室となっています。

郷土の先人に興味のある人は、是非一度足を運んでみたらと思います。

その後、城址公園に向かいましたが、お城の櫓は勢いのある樹木に囲まれて、その姿をかすかに目に出来るほどでした。

今回の上田探訪で故郷はいつ訪れても良いものだということを再認識しました。

【写真1：新緑の中の古城の門とお濠】



【写真2：信州ふるさと先人館】



【写真3：緑に囲まれる上田城櫓】



(2022年5月30日記)

以上